
結婚指輪物語
Tales of Wedding Rings
5
Presented by
めいびい

結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS


結婚指輪物語
Tales of Wedding Rings
めいびい
5

Tales of Wedding Rings

結婚指輪物語

5

Contents

Presented by MAYBE


指輪王……わたしの身も心もお前のものだ♥
健康的な肉体美と明け透けな性格が…!!
サトウ様…ネフリティスにいろいろ…♥教えてくださいね
この思わず守ってあげたくなる感じが…!!
ふふっ…こういうのも悪くはなかろう?
悪くないか…?いや確かに悪くないかもしれないな!!


うーん…
ポワァ…
…どうした 何を躊躇うことがある 指輪王サトウよ
だれ…!?
力のままに望むままに
すべてを掴み取れば良いのだ…
いや〜 そうは言っても 困っちゃうよな〜〜…
みんな 同時って わけには いかないし
それに 俺にはさ…
ふーん…
困っちゃうんだ
サトウって最低
ヒメっ!?
いやっ 違うんだ
ヒメっ! ……これは……!
ズル
ズル…
ふーん…
ヒメーっ! 俺は おまえが 一番……


はっ
これは……
ダメだろ…
し


第22話





結婚指輪物語

TALES OF WEDDING RINGS


昨夜のこと――
やはりここは…
嫁になって日の浅いわたしが隣に寝て絆を深めるのが当然だろう
…それだと妾が一番隣になってしまうが？
むむ…
絆の深さはわたしが一番だし？
わたしが一番隣に寝るべきじゃないかなー？
わたしはおふたりの間が良いです!!
ええーっ…
はぁ～…やっぱり妾は自室で寝る
あほらしい
ヨロオ…
ダメです！一人でも多い方が…


あの…ちょっと傷が開いただけだし
そこまで深刻じゃ…
魔力の伝達は距離が障壁となる…とにかくそばに居てやることじゃ
サトウは静かにしてて!!!
ぐわっ
あ はい…
うるせー…
だいたい…みんな一緒に寝るとかそもそもおかしいし!!
サトウの気持ちだって考えて…
おい ついさっきそのサトウを黙らせなかったか?
この状況……
男の本能は喜びを叫んでいる!!
うるさいなもーっ!!
いやしかしこれを甘んじて受け入れては……
みんな…聞いてくれ


どんなことがあろうと…
俺にとってはヒメが一番なんだ!!
サトウ…
それは存じております
わたしは何番目でも構いませんから
いくらでも待ちます♡
ただの一時愛してくれるだけでも良い
わたしは形には拘らんからな
妾はお主が務めを果たせるならなんでも構わんよ
そのためならどんなことでもしよう
どうしよう…
まったく意味がない…!!
ぐすん…
サトウ…お前は
宿命に弄ばれる哀れな我らにかける情けは持ち合わせていないのだな…
…というわけで
ここは大人しく流され3♡
がばーっ
ちょっ!グラナー!…
うわーっ…


これは……
ダメだろ……
……………
グイッ


ヒメ！
今日は一緒に出かけよう！
…へ？
…？
……？
えっと…ほら！
水の国に来てからずっと王宮にいるしさ
いろいろ見て回りたいと思ってたんだ
まぁそれはステキ楽しそうですね！
いや…ごめん ヒメとふたりだけで行きたいんだけど…
え…わたし…おいていかれちゃうんですか…


なんじゃ……
はぁ～…
朝っぱらから騒がしいの
指輪王の力が戻るまでしばらくは安静じゃ
大人しゅうしとるならどこへなりと遊びに行くが良かろう
よーし わかった！ こっちは任せておけ
まあふたりで楽しんで来るといい！
…なっ？ ネフリティス！
は…はい？
いいんですか……？
ありがとう…
任せておけって…
グラナートが一番に反対すると思ったんだけどな？
まぁ これは助かる…


…なに!?
お小遣いが欲しいじゃと!?
ヒメと出かけたいんだけどさ俺こっちのお金って持ってないから…
ふむ…そうかそうか
それでどこまでいくつもりかの？
この辺を見て回るんだサフィールに教えてもらったし
わしが聞いとるのはクリストルとの関係じゃ
そんなこといきなり聞くなよ!?
安心せい…少し多めに入れてある
宿代じゃ今日は帰って来なくても良いぞ
ぽんっ
だからそんなつもりじゃないって!!
そ～ろり…
おまたせ…サトウ
ここはサトウくんの世界…日本とは違うからの世間体など気にせず励めよ若者


ガヤ
ガヤ
…どこ行くとか決めてるの？
サフィールに観光名所とか教えてもらったからばっちりだ！
いいのですか…？後をつけるようなことをして……
グラナート
ネフリティス
わたしたちも嫁なのだ クリストルがしてもらったことは平等に受ける権利がある
つまり進展を見守らねばならない！
ぶっちゃけヤってたらそれをネタに脅す！
なるほど…？
なるほど…!!
サフィール



人を引っ張り出して何事かと思えば…
そうかそうか頑張ってての
がしっ
よし！追いかけるぞ！
おぉあなたは噂の指輪王様でしょう？
ようこそ！
雑貨屋
跳ねっ返りのサフィール様を落としたとは…
あのお方は知恵は回るが可愛げが無いでしょう
ははは！
ざわ ざわ…
不敬覚えたぞ
……！
意外と普通の見た目なんですね！もっとマッチョかと！
ははは今オフなんで
サインください！
あんまりデートっぽくない…


でもサトウは楽しそうだしいいのかな
今日のサトウは指輪王とかそういうのじゃなくって…
わたしの知ってる普通の男の子のサトウ
なんか…嬉しい
サトウから一緒に出かけようなんて誘ってくれたの
いつ以来だろう？
夏祭りの時は…わたしからだったし
あの時はもう二度と会えないって思ってた
来てくれてありがと
…サトウ


口のまわりついてるよ
な…
なに!?
なかなかいい雰囲気じゃの
ぱくぱく
ニヤニヤ…


うらやましいです
それにちょっと…寂しいですね
いかんなそんなことでは
一人と一人が愛し合うのが向こうの世界の常識だというが
そんなものただの考え方にすぎん
一夫多妻や一妻多夫もこちらでは当たり前の考え方だろう？
世の理は曲がらんが考え方ならば変えてしまえる
強引じゃのぅ…
それくらいの気概が無くてどうする


ザァァーー
……公園か？
まぁ こういうのはデートの定番じゃろ？
妾が教えたのじゃ
したことないから分からん
わたしも分かりません……
向こうが釣り堀で…
ここはなんだ？
…なになに？


愛し合うふたりが
ここで
口づけをかわせば
永遠に結ばれる…
という泉じゃの
風紀が乱れすぎる…
何っ!?
ならば
我々も…
がしっ
こんなもん
妾が生まれて
からできた
ただの噂じゃ
あほらしい
へ…
へ〜…
とすん
とすん
チラッ
こっち見た!?


これは……
俺からするのを待ってるのか……？
……よし！
いけーっ
やれーっ?!!


ガバッ
あ…
っ
いやっ！
こんな公衆の面前でするのは…
ちょっと!!
そっ…
そうだねっ!?
今さら気にするトコ!?
そういや…こんな近くでヒメの顔じっと見ることって
あんまなかった気がする……
ねぇサトウ…



もしかして…
自分から するのは 恥ずかしいの？
やっぱ最高に可愛い…
やっぱ俺は そうなんだ…
俺にとって ヒメは………
はぁ〜… 付き合い きれん 妾は帰る
そうですね… なんだか おふたりに悪い 気もします
えー つまらん
とはいえ… まあダメだろうな 進展はこれからに 期待するか
ふふ…
どうした？ ネフリティス


わたし…こうしてお友達と遊びに出かけたことなかったので
とっても楽しかったです
お友達……か
お友達と言うには
ずいぶんと年は離れておるがの？
あっ…
す……
すまぬ


観光客かね？
…おや新婚旅行かな？
魔導アイス
第23話
うぉぉ～～っ…
オッサン無理するなよ!?
ほ～～～らお似合いのふたりにはサービスだよお～～!!
デカ盛り!?
デデデーーン!!


俺さ……
この世界は
ヒメの生まれた
世界だし
だから
守らなきゃ
いけないんだって
思ってた…
でもさ…
今日もそう
だったけど
指輪の姫様や…
その国の人たち…
それにマルスさんや
サフィラだって
みんな
普通の人たちで
普通に生きてるん
だよな


あっちの世界もこっちの世界もそういうのは変わらない
そういうのが良いなって思えるんだ
…こういうのって勇者っぽすぎるか？
ぽいね
それっぽい顔になってるもん
…ホント
そんなふうになれるなんて思わなかったよ
サトウは
……？
日も暮れるし
これ食べたら帰ろっか


ね
サトウ
今日は
楽しかった
ありがと
お……
おう…？
確認なん
だけど……
これって
デートだと思って
良いんだよね？


!!
そのつもりだったんだけど…
そうか…至らなかったか…
ううん違うの！
ただこういうのって初めてじゃない？
どうして…今
誘ってくれたのかなって……
せっかく両思いなのにさ
恋人らしいことあんまりしてない気がして……
わたしもあんなふうに…
なりたかった
おかしいかもしれないけど…
俺だってこういうのあこがれてたって言うかさ…
そ……そうなんだ…


…でもね
こういうのは…
こっちでは
今日が最後にして
…え？
サトウは
わたしだけじゃ
ダメなんだよ
他のみんなだって
同じあなたの妻
なんだから


特別扱いは嬉しい
でも…これはこれで結構しんどいもんだね
サトウは立派に指輪王の務めを果たしてるなのにわたしは……
何言ってんだよ…!?
俺はヒメが一番だって…!!
…いや序列なんか関係無い
俺はヒメだけだ!!!


そういうわけには…
いかないいんだよ……
指輪の姫はみんな使命に従って…
覚悟を決めてサトウについて来てるんだから
その気持ちを…
ないがしろにしちゃダメだよ
サトウにはちゃんと資格がある
だからもっとみんなのために……


本当にヒメだけなんだ…
わからないって言うなら――


ギュ…
キュッ


ドキン…
ドキン…
ポー…
ドキン…
ドキン…



やっちまった――!!!
俺は今…ものすごく恥ずかしいことを……!!
ばっ
……か帰ろっか!
がしっ
やだ帰りたくない
…え?


わたしだけ…
ちょっと待て
これってもしかして……
なんだよね？
・・・そういう空気というヤツでは??


流されても良いのか？
いや…ここはついに
流されるべきトコロ
じゃないか!?
今日は
帰って来なくても
良いぞ
はっ
お泊まり
ですか…
空いて
ますよ
これはいけるぜ……
最高の初体験!!
ここは決めろサトウ……!!
お…
おぉっ……


カァ～～ッ
ああ～～～～
わたし……なんてことを……!!
やっぱ帰ろっか!?
今日は楽しかったしここまで!
……
…え?


やっぱりおあずけっ♡
ほらっ みんな待ってるし 早く帰らないと！
そ…そっか 今日のお土産とか 渡さないとだしな！
それは みんなもう 知ってるから ビミョーかも
どういう ことだ？
…なんでも！


使わなかったのなら返してくれる？
宿代
なんで知って…

アーヌルス博物誌

土の国イダノカンは遠く滅びた技巧の民，ドワーフたちの鉱山国家である．人が知る世界の中で最も偉大な連なる山『大山壁カオガミカ』の山肌に沿うように作られたイダノカンは，豊富な鉱物を埋蔵する採掘と冶金のための鉱山都市であり，同時に神話の戦いを勝利へと導いた要塞都市でもあった．神話の戦いにおいて都市は壊滅したと考えられており，今日では遺跡と化した市街と坑道を残すのみとなっている．土の国へ至る道のりは険しく，数々の冒険者や学者が足を踏み入れようとし，命を落としている．しかしそれでもドワーフの遺物は人々を引きつけてやまず，魔動装置や宝飾品を持ち帰ることが出来れば，莫大な報酬と名誉が約束されている．

イダノカン市街の地下にはドワーフたちが掘った巨大坑道が残されている．そのあまりの複雑さから『迷宮隧道』と呼ばれており，その長大さは大山壁を貫き遙か火の国ニーダキッタまで達すると言われている．迷宮隧道にはドワーフが用いた地下生活の拠点が至る所に存在し，冒険者たちはそこを拠点として探索を行っている．また，坑道内は力を帯びた水晶を加工して作られた魔法カンテラに照らされており，ドワーフの技術力の高さを今も物語っている．

あまり知られてはいないが，冒険者の中には滅んだ都市や古代遺跡に異常な関心を持つものたちが存在する．彼らは財宝ではなく，遺跡そのものの探索を目的としており，その至高の目標とされているのがイダノカンである．なかには迷宮隧道の魅力にとりつかれ，地上に出ることを拒み，地下に町を築き暮らし始めるものもおり，二度とは帰らぬ彼らを人々はドワーフの呪いにかかったと噂する．しかし愛する廃墟に囲まれての暮らしは彼らにとっては楽園と言えるのではないだろうか．もし，彼らの地下の町へたどり着くことが出来れば，探索の強力な足がかりとなってくれるはずである．なお，ドワーフの生き残りを発見したと報告する学者はあとをたたないが，今のところその全てが地下生活に適応した元冒険者たちの伸び放題のヒゲ面を見ての誤解である．

大山壁カオガミカは，火の国ニーダキッタとマーサを隔てる巨大な山脈である．あまりの険しさに何者も越えられないと話す人間に，神々は「我々にとっては丘のような低さだ」と笑ったという昔話がマーサに残されている．それほどまでに険しい山々であるが，幾通りかの登山経路が知られており天候に恵まれさえすればイダノカンへの到達は不可能ではない．しかしその目的地が山頂となれば話は別で，過去様々な冒険者たちが登頂を試みたが，いまだ誰一人としてなしえたものはいないという．


第24話
え〜コ…
なんで妾まで
ついて行かねば
ならんのじゃ？
お分かり
でしょう…
指輪の君の
魔力なくして
指輪王は
戦えません
イヤ
なのじゃ〜
その３人で
まだ足りん
と？
おぉ恐ろしい…
まさに底なしの
ゼツリンなのじゃ


故郷を
離れるのが
怖いか？
存外に
臆病なのだな
〝閉じこもりの姫君〟
と呼ばれた
ネフリティスを
見てみろ
ちゃんと
ついて来て
いるぞ？
そりゃの～
こやつに比べれば
妾は赤子も同然の
年齢じゃが…
そうじゃ！
代わりに
サフィラを
連れて
行っては？
それじゃ
意味無いと
思うんだけど…
冗談じゃ…
………


すまん
このようなことになってしもうて
あやつはここに残ると思ったのじゃ…
いいえ良いのですお姉様
マルス様は自らの役割を見つけられたのですから
それにあの方のそういう誠実なところをサファイラは愛しているのです
その…
妾が居なくても…大丈夫かの？
心配しないでください
お姉様が居ない間お父様とマーサを守ってみせます


お姉様こそ…お気をつけて
そして…どうかマルス様を指輪の力でお守りください
ああ…
任せておくのじゃ



いや〜
一緒に来てくれて
ホント助かるよ！
あの竜に
変身するヤツ
すごいもんな！
ああ…アレか
アレはのぅ〜
正直しんどい…
二度とやりたく
ない
えぇ…
そんなこと
言わずにさ
たまには
お願い
したいん
だけど…
やはり負担が
大きいのですな
魔法を使うなら
わかるじゃろ？
凄まじい魔力が
翌日の足腰に
響くのじゃ…
…のう？


そ…
そうなんだ……
魔法を使うのは大変なことなのですね
……？
はっ
……まさかこやつら…
脳筋!!
無能!!
ただの引きこもり!?


ふ…
不安なのじゃ…


ガタッガタッ…
次は土の国…っていうけどさ
どんな所なんだ？
土の国イダノカンはマーサの遥か北方
切り立った山脈にあるドワーフたちの都…
……と本に書いてありました！
でも…
ドワーフ!?
…っていうとヒゲが生えてて小さくてムキムキの…
さてのう…？
三頭身のお姫様とか…？
じいさん…知らないのか？
さての〜…？
ドワーフたちは指輪王と深淵王の戦いで滅んでおる
イダノカンは今は遺跡が残るのみじゃ
!?


伝説によれば
他種族を嫌う
職人気質の者たち
だったそうじゃ
指輪王に従い
それは勇敢に
深淵王と戦った
そうじゃが
もともと
少なかったその数を
大きく減らしての
戦いのあとは
人を避けるように
地下に篭り
いつしか
居なくなって
しもうた
…つまり
お姫様どころか
指輪があるかどうかも
分からないって
ことか!?
うむ…
しかし
こうして
向かっているのだ
何かアテは
あるのだろう？
大賢者殿


無いのう…
無いの!?
無いのか!?
ま
行ってみてからなんとかするしかあるまい
なんとかならんかったらその時考えるまでじゃ
見えてきましたよ


あれが
大山壁カオガミカ
この遙か高みに
土の国イダノカンは
ある――
さてと…
ここからは
歩きじゃ
えーーい…
ほれ
行くぞ!!
いやー
いかにも冒険って
感じだな!
…とか
最初は思ってた
けど……
はぁ
はぁ


どんだけ遠いんだよ！
もう山の中だけで三日だぞ！
ドワーフの交易路は遥か昔に潰されておる
危険はあるが残ったこのルートを通るしかあるまい
なに
もうすぐじゃ
…しかし
気を抜くでないぞ
足が滑れば・・ああじゃ



うわー大きな骨！賢者様あれはなんですか？
うむおそらくは深淵王の時代の魔物じゃろう…
大山壁カオガミカは激戦地じゃったからの
こんな大きな魔物がいたんですね……すごい！
がばっ
なんでこやつこんなに元気なのじゃ…？
頑張りましょう！
山の木々も谷を吹く風もサフィール様を応援してますよ！
ぱぁあああ
励まされた!?
引きこもりだった奴に!?
シュタッ
ビクッ
偵察ご苦労
どうかの？先の様子は
人も魔物も居ない
だが…この少し上に休めそうな場所があったぞ
そうか…今日はそこまでかの
ほれ頑張れ現代っ子！もうすぐ休憩じゃ
はーい


……なぁ
じいさん
指輪を集める
意味って
本当にあるのか？
なんじゃ
急に
帝国の人たちはさ
指輪の力に頼らずに
深淵王と戦うつもり
なんだよな
実際
マーサを襲った魔物は
ほとんどやっつけてた
みたいだし
なんか…
思ってたのと
違ってさ
世界を
救う勇者
深淵王を倒す
伝説の指輪王
実際
みんながみんな
期待してるって
感じじゃないよな
…なんて
いうけどさ
そうじゃ
のぅ…
世界は広い…
色々な人間が
色々な考えで
暮らしておる
誰しもが
同じ希望に
すがるわけでは
無いからの
人の力で魔物を
打ち倒せるのならば
同じく深淵王も…と
考えるのは道理じゃ


そっか…思ってたよりも
信用無いんだな この指輪
じゃが…わしは長い旅の人生で様々なことを知った
断片となってはおるが深淵王の恐ろしい伝承も多く聞いた
神話の時代より未だ残るその深い爪痕もな…
深淵王の力は計り知れん
現にわしらの魔術では微塵も理解できぬ恐ろしい力を使い騎士や魔物を操っておる
その力すら封印の上から漏れ出すわずかなもの…
人の力だけでどうにかできるとはわしにはとても思えん
この世界の記録すべてがわしにそう思わせるのじゃ…


なに
深淵王の復活が
伝説の通りなら
指輪王の復活も
また運命
四つの指輪を
集めた
サトウくんじゃ
もう一つも案外
あちらから
やってくるやも
しれんぞ
…さて
火の番を
代わるから
もう寝なさい
ああ…


これが…土の国イダノカン
ドワーフたちの失われた都じゃ


第25話
酷い……
有り様だな…


何度も深淵王の襲撃を退けたというが
最後の戦いはそれは凄まじいものだったそうじゃ……
荒れた街を再建することもなく…
ドワーフたちは居なくなってしまったのですね


ホントに……誰も居ないみたい…
静かすぎて
なんだかヤな感じ……
…そうですか？
わたしは好きですよ
誰も居ないってステキ
住みたい…
ええ…？
暖かければもっと良いんですけど…
よっこいしょと…
妾はここで待っておる
土の指輪はお主らで探してくるがよい
てきとーに歩き回るのは好まんのじゃ
……なんだサフィール姫はもうお疲れか？
ここは既に深淵の領域のすぐそばだ
何があっても知らんぞ？



ふふ…
ならお主が護衛に就けばよかろう
名誉なことじゃ
励めよ
まったく……
仕方のない奴だな…
わたしがおぶってやる
ほら乗れ
……は?



いいいいいいらん!!
自分で歩くわ!!
ふふ…
遠慮することはないぞ照れ屋さんめ
遠慮などしとらんわ!!
そうかそうか





ここは…
わりとキレイなままだな…
玉座らしきものもある
恐らくここが王宮だろう


ギョッ
こ……
これは…!!
じ…じいさん!
し…ししし死体が!!
落ち着けサトウくん
これはドワーフの
死体ではない
魔動兵士…
神話の遺物じゃ
まどう…へいし?
ロボット
なのか……?


魔力が無くては
動かん
ただの人形じゃよ
安心せい
ドワーフの文明は
魔動機関…
魔素で動く
機械仕掛けと
共にあった
大地を掘り
金属を鍛え
その鍛冶の腕を
磨くことに
すべてをかけた
彼らの生の結晶じゃな
神話の戦いで
ドワーフたちは
魔動機関を
兵器として
使っておった
ほれ
ニーダキッタの
魔動車も
現存する数少ない
遺物のひとつじゃ
大昔に祖先が
土の民から
もらったと
聞いている
どうやって
動いているのかは
サッパリ
わからん！
…いろいろ物は
残ってるのに
肝心のドワーフたちが
どうなったかは
わからないのか…
それだけ
混沌とした時代
だったのですね…


……ふむ
やはり ここまで来ても 指輪の手がかりは 無いようじゃの
残るは 地下坑道しか ないか…
地下…？
まだ この先が あるのか!?
!?
消えた…
我らは…消えた…
土の民は…… …みな…消えた…




おい じいさん どうなってる!?
まだ動く物が残っていたのか!?
そんな馬鹿な…いや…これは!!


深淵王の騎士か!!
機械まで支配できるとは…
なんでもアリだな!
なぜだ…
我らは共に戦った…
だが
なぜ
我らだけが消えたのだ
なぜ我らだけが…滅びねばならぬ!!
!?
何を言って…


風も…
火も…
水も…
光も
共に滅びよ
我らが主と…
我らと
同じところへ……
深淵に飲まれよ!!!
ズドドオッ
いかん!
サトウくん
だけが
壁の向こうに!


邪魔をするな 異界の者よ
お前はこの世界に 関わりなど無い…
戦う理由など 無いはずだ
いいや あるね!
ヒメの ためだ!!
命をかける ほどの ことか…?
ああ!


愚か者め…
この世界に利用されているだけだ
ボゴ
ズオッ
サトウ…!!


ありがとう
…ヒメ！
オオオオッ…




ドワーフの人たちは…
恨んでいたのでしょうか
さてのう…
深淵王の闇に染まったゆえの言葉じゃろうが…


……時は来た……


蘇りの時が…
古の王の復活の時が!!!
なんだ…？
黒い指輪が消えて………


……あれ？ネフリティスは？
落ちつく……

アーヌルス博物誌

ドワーフ，あるいはドヴェルグ，時に闇エルフとも称される謎多き種族．彼らは採掘と冶金，そして魔法を用いた装置の作成に長けた技術者であり，他種族との交流を避け技巧の探求にのみ心を向ける求道者でもあった．多くの言い伝えと遺物に彩られたその姿は，しかし実態を明らかにすること叶わず，もはやどのような見た目でどのような言葉を話したのかさえ正しくは分からない．神話の中に消えた彼らだが，火の国ニーダキッタそのものでもある魔動車にはじまり，様々な魔法の遺物がその実在を今に伝えている．

ドワーフの外見はわずかに伝聞で伝えられるのみであるが，それでもいくらか特徴的な部分が知られている．様々な説があるが，身の丈は低く，力仕事に適したがっしりした体型だったとするのが一般的である．しかし，発見された魔動人形のほとんどは細身であり，ドワーフがともに働く作業者として作り出したにしてはなんとも違和感が残るものである．闇エルフという呼び名があることも踏まえると，人間やエルフとさほど変わらない体型だったのではないかと推測される．ただし，魔動人形くらいはせめてスマートで格好良く作っておこうとしたのではないか，という悲しい説も唱えられてはいる．

ドワーフの滅亡については，深淵王との戦いで大きくその数を減らし，繁殖力の低さもあいまって滅びた，というのが定説である．しかし消えゆくものを惜しむ人の心は時代を問わないのか，彼らがいまだどこかで生き延びているとする説も多く語られている．曰く，迷宮隧道の地下深くにドワーフたちは隠れ住んでいる．大山壁を降り他種族にひっそりと紛れている．異世界への扉を開き，種族全員が旅立った．などである．実際にドワーフが生き延びているのならば，長い歴史の中で少なからず目撃例も存在するはずであるし，いくら他種族を避けるとはいえこれほどまでに隠れ続ける理由も見当たらない．いずれも神話の時代に消え去った彼らへの惜別の情がにじむ，暖かくも悲しい虚説であろう．

近代の一般的なドワーフ想像図
おそらく右が男性で左が女性であるが根拠は無い



男女ともにヒゲの手入れには手間を惜しまない


おわっ…!?
第26話
黒い指輪が……
消える——!?


ズゥウウウ…
ついに…
始まったか







何が……
起きてるの？
ヴォ
オン…
!?


気をつけろ…
来るぞ!!


深淵の魔物…!?
どうなっておる…
状況が分からんまま戦うのは危険じゃ
一旦外に出るぞ!!
タタ
タタタ…


こんなにたくさん…っ?
どっから沸いて来たんだよ⁉
何者かに召喚されたのか…
数が多すぎる‼


こうなったら…
先生！よろしくお願いします!!
んっ…？妾か!?
あの竜になるやつでどーんと！
いや無理じゃ…
あのような大きな力は水の魔素の少ないこの地では使えん
マジか!!
グルル…
サトウくん…！
迎え撃つぞ!!





サトウ…！
フォローくらいはさせてもらうよ
助かる…！


おい じいさん…
どうなってる!?
まったくキリがない……


倒しきれんか…仕方あるまい
走れ…こっちじゃ!!
今のうちに距離を稼ぐ…!!
…ふんッ


はぁ…
はぁ…
サトウ…
大丈夫？
大丈夫…さ…
…このくらい
少し休めば……
いかんな…
消耗が
激しすぎる
このまま
では……
…？


じいさん……？
信じたくは…無かった……
まだ時間はあるはずと…
…いや そう願っておったが……
無念じゃ………
!!
なんだよ………
これ………









ガクッ
深淵王が…
完全に復活した…!!
なんだよ…
あの魔物の数……
五つの指輪が無くては指輪王の真の力は得られん……
戦っても…勝ち目は無いじゃろう
指輪が五つ揃うのが先か…深淵王の復活が先か
賭けに負けたのじゃ わしも……この世界も






とにかく…
ザッ
今は
逃げないと
土の指輪を
探すんだ
まだ間に合わないって
決まったわけじゃ
ないだろ!?
……もはや簡単に
逃がしてはくれるまい
…いや
この世界のどこにも
逃げ場などあるものか
深淵王は必ず
こちらを見つけ出す


そんな…
ではわたしたちは…
安心せい
このままみすみすやらせるものか！
じいさん…
何を？


門を開く!!
指輪が深淵王の手に落ちることだけはあってはならんからの
ズガァァ
…じいさん!!
来るな!!
ザザ
ここは僕に任せてください



門を
閉じれば
深淵王といえども
追っては来られん
…そのためにも
わしは残って
すぐさま門を
閉じなきゃならん
開きっぱなしで
また計画が狂っては
困るからの
…!!


サトウくん…
君は
わしの希望じゃった
こんな形になって
しまったが……
姫たちを
指輪の宿命から
解き放ってやってくれ
…姫乃を
頼んだぞ


いやっ…
おじいちゃん!!


良かったのかの
マルス殿はこちら側で
僕はこの世界のために
最後まで戦う覚悟です


すまんの…
付き合わせて
いいえ…
大賢者様となら
………光栄です


バッ


……そっか
そうだったな…


ガチャ
205
野中
みんなは…
もっと
辛いだろうな


おじいちゃん…
本当に…
帰って来たのか？




よし
ここは明るく…
コン
コン
俺が
しっかりしないと！
パタ
あ〜もうっ!!
パタ
ちょっとまっ…
?
ガチャリ…
ヒメ…？


ポ〜ン…
ファサぁ…
…ブラ?
はっ




おい
妾に合うものが無いんじゃが
あるわけないでしょ!!
くんくん
この服 妙なにおいがするぞ…
それ おじいちゃんの!!
クリストル様！ソウリョウムリョウ!!ってなんですか!?
サトウ……
お…おはよう


あんな派手なモノを
使わなくても
この布一枚で十分だ!!
しっかり
確かに!!

アーヌルス博物誌

髭こそがドワーフを語るうえでの議論の中心となる最大の関心事といえる．男女ともに非常に濃いヒゲを蓄え，長く美しく伸ばすことがより優れたドワーフの証とされていたと伝えられており，ヒゲすなわちドワーフと言い切ってしまう過激派の研究者も存在する．しかし近年の研究でいくつかの誤りが指摘されている．有名な話として『ドワーフは男女ともにヒゲが生えている』というものがあるが，ドワーフらは交易以外でイダノカンを出ることはまず無く，さらにドワーフ社会において交渉事は男性の役割と決まっていたとされる．よって人前に現れるのは男性ドワーフのみだったために生まれた誤解であったとされる．指輪王の妻となったドワーフの姫は，人の目から見ても美しい姿であったと伝えられており，ヒゲについての逸話も一切ないため，ドワーフの女性にヒゲは無かったとする説の根拠とされている．また，一部ではそもそも全てのドワーフにヒゲは無かったとする説も唱えられている．ただしこれは全身に毛が生えてつながっているために，どこからがヒゲでどこまでが胸毛なのか分からず，いっそ体毛とひとまとめに呼称すべきという主張であり，ヒゲの細分化を進めるドワーフ研究の潮流にあって厳密さを欠く異端とされている．

食を見て国を識る．イダノカンとドワーフは滅びて久しいが，その文化には神話の戦いから滅びずに伝わり続けるものもある．その一つがドワーフが愛したとされる『酒』である．今も昔も酒は広く世界中で作られているが，特にドワーフは酒を好んだと伝えられている．暗く長い地下生活を送る彼らにとって飲酒は数少ない貴重な娯楽であったことは想像に難くない．ドワーフ酒の製法は大山壁のふもとのいくつかの村に伝わっており，醸造したドワーフ酒を香草とともに瓶に密封し，それを地中に埋めて作られる『ドワーフの土酒』は著名な特産品となっている．長い時を経た酒は土の魔素を取り込み，えもいわれぬ極上の風味といくばくかの治癒の魔法効果を得るという．貴重な土酒は城が買えるほどの価値とされ，自分の生まれ年に埋められた土酒を飲めば不老長寿が約束されるという．ただし，この土中に瓶を埋めるという製法はドワーフ由来のものでは無く，とある村長の村おこしの思いつきであることが明らかになっている．

土酒はドワーフをかたどった陶器に移され販売される事が多い

酒瓶の製造も重要な産業となっているが，高級品は造形が優れており少々不気味である

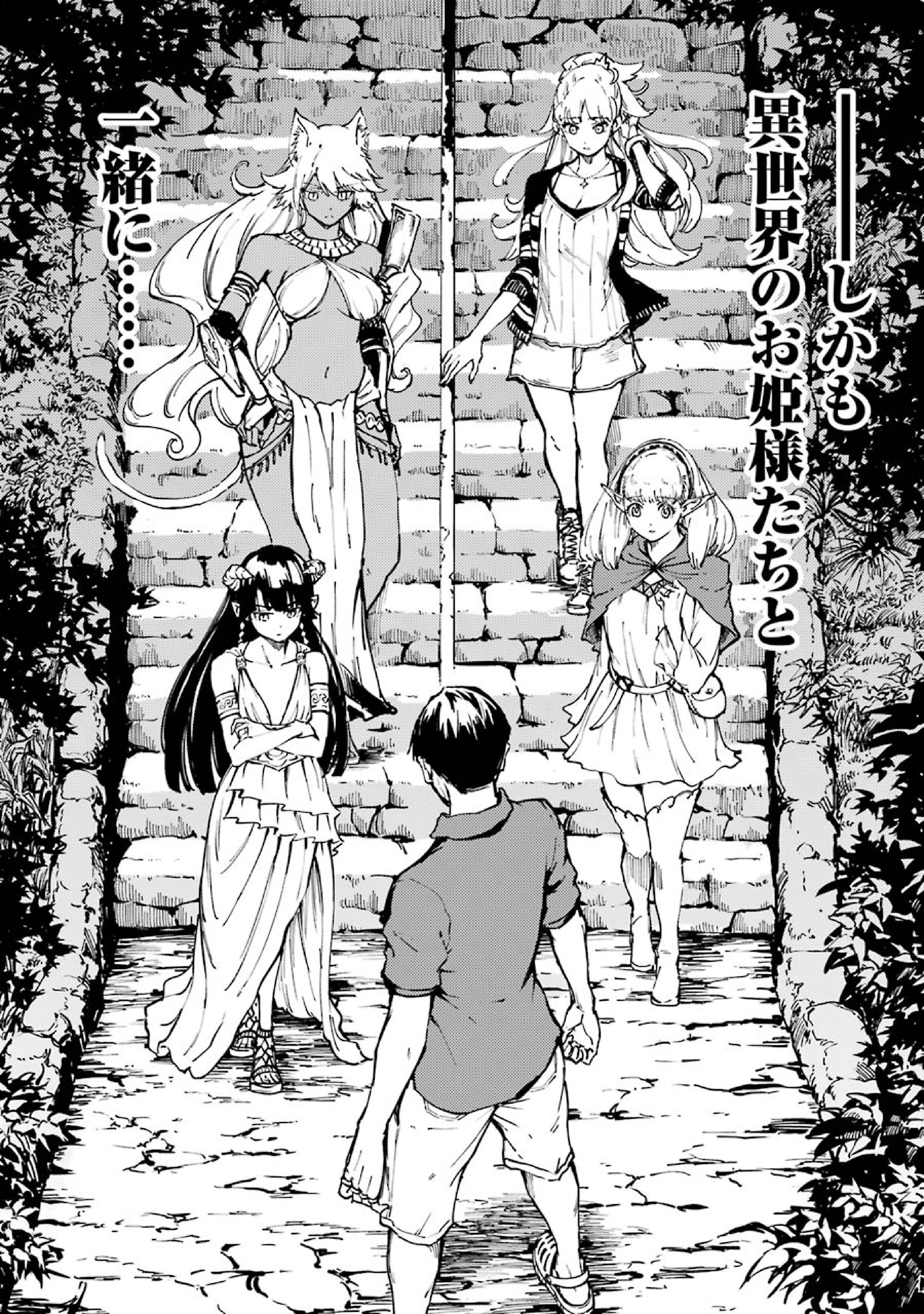


酒瓶の造形は味には無関係である


第27話
やっぱり…
何も無いな……
魔素の流れも感じぬ
本当にここがアーヌルスと繋がっておったとは…
信じられんのじゃ
おじいちゃんが言ってた…
あっちと繋がりやすい場所があってそこに門を開いてるんだって
なんでここなのかは分からないけど…
明るいうちに改めて来れば何か見つかる可能性もあるかと思ったが…
結局手がかりは無しか


……？
なんですか あの小さなお家は……？
…ああ アレは古い祠だよ
ここは神社の裏山なんだ
ジンジャ…？ 神殿のようなものか
しかし参拝者も神官もおらん 寂れておるな
祭りの時は賑やかなんだけどな
まあ普段はこんなもんだよ


本当に戻って来てしまったんだな
──この世界に


──しかも
異世界のお姫様たちと
一緒に……


あんたら…？
あのっ…違うんです
この人たちは……！
あぁあぁ…これがテレビでゆうとったコスプレかぁ…
こすぷれ…？
ファッションセンター
よしむら


とりあえず服装だけでもなんとかしてもらわないとな…
さすがに目立ちすぎちゃうもんね！
クリストル様着替え終わりました…
シャッ
どうでしょう…これで目立たないでしょうか？
かわいい！やっぱりかわいい！
いいんじゃないか？


…？
店員さん
バッ
シャア
え……
今…
なかに…
え…エル……？
わ…わたしの友達が
使ってますけど
…何か？
あっ……
お友達？
お友達ね…
何か困った
ことがあったら
声をかけて
くださいね
見間違い
かしら…
わたしも
着替え
終わったぞ
妾もじゃ


…これで
いいのか？
妾にはよく
わからんの
うんうん！
ふたりとも
似合ってるよ!!
ヒメ
楽しんで
るな…
すいません
この服全部
このまま
着て行っても
いいですか？
それでは先に
お会計を…
ありがとう
ございまし
た——
やっぱり
エルフだ…
エルフ!!
え…
猫耳？
角……!?


やっぱり頭だけはいかんともし難いな…
ずっと何かかぶってもらうわけにもいかないいし
COFFEE&RESTAURANT
とりあえず目立ち過ぎなきゃ良いんじゃない？
なんだ？あの集団…
何かのイベントの帰り？
気にはされちゃうけど…騒ぎにはならないみたいだし
さて…
アーヌルスへ戻る門はやはり残ってはおらんかった
これからどうするか…考えねばならんのじゃ
キョロ キョロ
じいさんの使ってたあの…転送魔法？
練習すれば実は誰か使えたりしないのか？
難しいじゃろうな
あれほどの魔法を扱えるゆえの大賢者といったところか
わたしも聞いたことはあったが…使う者を見たのは初めてだ


何かご注文ですか？
ビクッ
ヒョイ
あちらから迎えが来る可能性に賭けるか
こちらから行く手段を他に見つけるか…
ひえっ!?
どちらにせよ今のところ手がかりは無い
魔法のことは全くのお手上げだ
お手上げではすまんじゃろう…
己の国が心配では無いのか？
ニーダキッタは商人ギルドが行く先を決めているからな…
国のことは心配していない
あ……ロムカには…
お兄様と長老様がいますから…
わたしは…
そもそも10年間この世界に居たし……
はぁ〜…
お気楽じゃの



妾は
もどかしい
どうにもならぬと
分かっていても
この気持ちは
変わらぬ
妾は帰る方法を
探し続けるのじゃ
心外
だな
わたしだって
諦めたわけでは
ないぞ
しかし
こうなった以上
万が一のことは
考えなくては
ならんのだ
姫たちを
指輪の宿命から
解き放って
やってくれ
ところで…
さっきから
なんのかんの言いながら
よく食べるな!!
むぐぅっ!?


実はスウィーツには目が無いのじゃ
ここのは…うまいの♡
足りるかな………
ヒメ…
さっきの服代もだけど……
大丈夫
ここはわたしに任せといて
理由は…後で話すから
…?


はぁ〜〜〜
ぶく
ぶく
今日一日
結局何も
つかめんかった
のじゃ……
今は
待つのみ
こっちで
生き抜くことを
頑張るしかない
ということだ
こういう時こそ
前向きでなくてはな!
脳天気な
獣人め…
ずい…
何を
するか!


わたしだって故郷が気にならないと言えばウソになる
が 気にしたところでどうなるものでも無いだろう?
切り替えるのには時間がかかるだろうが…頑張ろうじゃないか
むぅ…
そうですよ!
わたしも頑張ります
この究極のお外の攻略を‼
おそと…?
がんばれ!
もしやこやつにとっては異界だろうと自分の部屋の外の延長なのか…?
ぐしゃ ぐしゃ
あの…ここは銭湯…っていうかその
いわゆる大衆浴場だからあまり騒がないでね
今は他にお客さん居ないみたいだから大丈夫だけど
ゆ
なにニーダキッタも基本は大衆浴場の文化だ問題ない!
立派なモザイク画だ!
ニーダキッタのサウナにもこれ程のものは無いぞ!


この世界にも大きな風呂があって妾は安心した
それに引き換えお主の家のあの風呂はなんじゃ?
ノカナティカの姫はあのような狭く侘しい住居での生活を10年も強いられていたのじゃな…
かわいそうに……
ごめんね…狭くて侘しくて……
しかしあれだな…
この地には
人間だけで他の種族は居ないのか
!!
よし!
まずはこの地で猫人を増やさねばな!!
ザパ
!?
子作りをするんだ!!!
やめて!!


そういえばクリストル
こちらに戻れば指輪王と先に進むという話はどうなった？
そっそれは…
サトウ次第というか…
約束していたではないか！
わたしも聞いていました！
ビクッ
そう……なんだけどね……うん
こんなふうに帰ってくるとは思ってなかったから……
煮え切らないな…
いいのか？わたしはいつでもサトウを腕力でねじ伏せても……
やめて!!


おお
早かったな
ニヤニヤ
……？
…どうした？
……なんでも


じゃあ おやすみ
ガタッ
あっちに4人だと やっぱり 狭いからね…
わたしだけ こっち
…おう 大丈夫なのか？ あの3人だけで
何かあっても すぐ隣だし 大丈夫だよ


パタ
パタ
あのさ…
はいっ!?
今日の服代とか
飯代のこと
だけど……
ああ…
あれね


部屋の中にね
手紙が置いてあったんだ
おじいちゃんの置き手紙……
これを読んでいるということはうまくいかなかったのだろう
そばに居てやれずすまない
だが姫乃が無事でなによりだ
この通り家もお金も残してある
こちらで生きる上での根回しも済んでいる
何も心配は無い
アーヌルスのことは忘れ
普通の人として生きて欲しい


おじいちゃんはね……
こうなることも考えてたんだよ
だから…
だからね
何も心配はしなくていいからって……


おきて…サトウ！
朝だよ起きて！
ん……
ヒメ……？
おはよう
サトウ！


むくり…
制服エプロンの幼妻……
俺は夢を見ているのか……？
何言ってんの!!
ポイッ
はいっ朝ごはん！
おにぎり…？
夏休みはもう終わり
学校行くよ！
…へ？
…え!?
学校!!?


…あれ？
ヒメ外国に
引っ越したんじゃ
なかったの!?
いや〜それが
ちょっと
トラブルが
あって…
学校なんてもう
行かなくても
良いって思って
たのになぁ〜
あ〜あ……
サトウ！
夏休み中ぜんぜん
連絡つかなかったん
だけど
どうしてたんだよ!?
いや
ちょっとね…
…てかなんだ
その左手!?
怪我でも
したのかよ!?
包帯で指輪
を隠してる
それに…
心なしか逞しく
なってないか……？
何があったんだ…？
ま……
ちょっとした
冒険って
ヤツをね……
学校…教室…
夏休み前と
何も変わらないな
こうして
戻ってみると…
全部夢だったのかも
なんて…


…いや 確かに
夢なんかじゃ なかったんだけど……
じゃあ・・・アレは
俺にとって なんだったんだ？


それから幾日かが過ぎた――
ネフリティスはこの世界のことを知るために図書館通いをしている
文字は案外簡単に読めるそうだ
誰も話しかけてこないので人見知りにも優しい場所らしい
グラナートはトレーニングを欠かさない
気さくな性格で
近所に友達も増えたらしい
サフィールは完全にだらけ…………いや
毎日…一日中考え事をしている


バタン




…サトウ
毎日夜中に
こっそり見に来てるよね……
俺は別に良いんだけどさ………でも
お姫様たちはこのままでいいのか…？
みんなそれなりに馴染んでるし…
大丈夫じゃないかな
強いよね


本当はみんな帰りたいだろうけど…
もう帰ってもダメだと思う
サトウにはどうしようもない
指輪は揃わなかったんだもん
…だからおじいちゃんは最後に願ったんだよ
お姫様たちを指輪の宿命から解き放ってあげて欲しい……って
みんなそれぞれこの世界での幸せを見つけなくちゃ
サトウもそう
向こうの世界のことはもう忘れて
この世界でわたしと一緒に幸せになろう……？


…………ね？
幸せに…………か
ギュッ…



……いや
このままで
幸せになんてなれるものか
…ヒメ！


…なんだ!?
祠が……!!?




ネフリティスの冒険！
アパート
START!!
てく
てく
50メートル
図書館を発見!!
FINISH!!
はぁ〜っ!

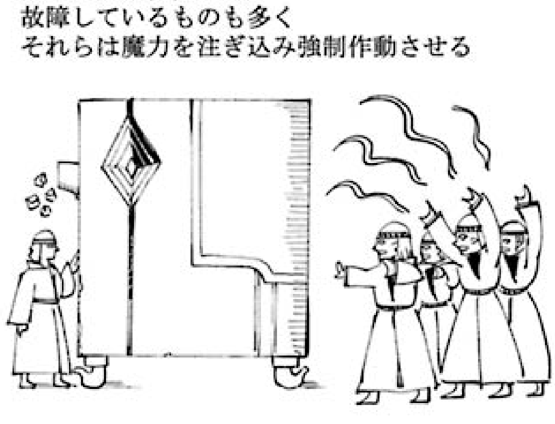
アーヌルス博物誌

魔動機関はドワーフが残した最も偉大な発明である．周囲の魔素を取り込み動力を生み出す機械仕掛けであり，大地を操る土の魔法を基礎に４大魔素と魔法金属とを組み合わせ作られている．意思の力を声に乗せ示す魔法呪文を機械を用いて詠唱し，魔法効果を得るとされている．しかし現在ではその再現は不可能である．仕組みを解明すべく魔動炉を開けた途端に二度と動かなくなってしまうためだ．炉の中で働く妖精が逃げたなどと冗談めかして言われるが，あながち間違いでは無いのかもしれない．それほどまでに不可思議な技術で作られており，製法が失われた事はアーヌルスにとって多大な損失であった．

現存する魔動機関で最も有名なものはニーダキッタの魔動車であろう．都市の一区画をまるごと動かすその力はまさしく驚異であり，これが用いられたという神話の戦いのすさまじさを物語っている．猫人たちが代々受け継ぐ整備方法は極めて簡易なものであり，それでもなお神話の時代より動き続ける耐久力にドワーフたちの技術力の高さを見ることが出来る．一方，巨大な物だけではなく繊細な技術の集大成として知られるものが魔動兵士である．人と同じように動き，人よりも勇敢に魔物と戦ったとされる，恐れを知らぬ造られた兵士たち．今でもイダノカンの周辺でその残骸を見ることが出来るが，一つとして動く物は見つかっていない．あるいは動かし方が分からないだけかもしれないが，壊れているのかすらわからないほどに複雑な仕組みをしているという証でもある．神話の時代には人と見まごう姿をした魔動兵士も造られていたと言われているが，今現在見られるものは人とはおよそかけ離れた人形のような見た目のものばかりである．

イダノカン周辺ではほかにも様々な遺物が見つかっている．特に名高いものとして魔動射影機関，魔動氷結機関，魔動全自動洗濯機関が知られており，これらは神器と讃えられ垂涎の的となっている．一方で魔動送風機関，魔動釜，魔動肩たたき機などは多く発見されるが，これらの価値は低く，近隣の村では拾い集められた遺物が土産物として販売されており，ドワーフの土酒とならんで辺境の貴重な現金収入源となっている．

魔動機関作動の儀式の様子
発掘された装置には
故障しているものも多く
それらは魔力を注ぎ込み強制作動させる



宮廷魔術師が十名いれば半日で
コップ半分もの氷を作ることが出来る



第28話
なに……!?
女の子…!?
祠の中から…


ビクッ
ググ…
グッ…
長い長い時を…
ずっと待っていた…
やっと…会えた
…指輪王――



あ………
べったり…
えっ!?
お邪魔だった…
かえる…
ちょっと待って…
"指輪王"…って——!?
さっき
あなた……
もしかして——


土の指輪を守るモノ
アンバル・イダノカン
どういうことだ…？
指輪の姫が…
向こうの世界…アーヌルスじゃなくて
こっちの世界に居たのか——!?


はるか昔のこと――
深淵王との戦いが終わった時
生き残ったドワーフはほんの少ししか居なかった
いずれドワーフは絶え
土の国イダノカンは滅ぶ…………
その滅びを受け入れ
指輪を受け継ぎ守るために…
ドワーフは長き時を越える指輪の器〝アンバル〟を造った
!?
今……なんて……………?
…造った!?
アンバルは造られた〝物〟
ドワーフの姫の形代


アンバルは指輪と共にこの世界へ飛ばされた
他の誰にも指輪を奪われないために
指輪王に届けるために
ずっとずっと
何百年も待っていた
遠い遠い世界で指輪王を待っていた
いや…
かなり無茶なことしてないか？
それ……
完全にバクチ…
大変だった…
妖怪と呼ばれたり
神様に間違えられたりした
それで祠の中に…
でも…


指輪王が
深淵王を倒すのは運命
土の指輪のもとに
現れるのも運命
運命なら
どんな小さな希望でも叶う
だから待った
嬉しい
これは
運命
ほんとうの
運命
さあ
アンバルと
結ばれて
深淵王を
倒し
アーヌルスに
平和を——


…ダメっ!!
アーヌルスはもうダメ…
深淵王が復活して…わたしたちは逃げてきたの
わたしたちは負けたの
………
それに戻る手段もない
あっちに連れて行ける人が居ない
だからもう……
逃げてきた……?
指輪王はアンバルを探しにきたのではない……?


アンバルは指輪王をアーヌルスへ戻せる
そのための力を与えられている
!!
指輪の契約を交わせばアンバルは力を取り戻し
アーヌルスへの扉を開くことができる
指輪王は戻りたくない……？
サトウは絶対に戻らないから!!
俺は…


ヒメ……
そう…
アンバルの運命は
果たされないということ


もし
心変わりしたら教えて
来ないのを
待つのは…
慣れてる


ぐつ
ぐつ
…なぁ サトウ
最近 補習とやらで 随分帰りが 遅いみたいだが
もっと早く 帰って来られ ないのか？
もう毎日 退屈で
退屈で……
きのこは ありますか？
では わらわの しいたけを やろう
夏休みの宿題 全部 すっぽかした からな…
もう しばらく は……
お前は 我々の夫 なのだから
もっと構って くれないと 困る!!
はい…


ネフリティスも最近外に出ていないようだし
退屈そうにしているぞ？
図書館通いしてたんじゃなかったのか？
それがその…
毎日通ってたら
顔を覚えられて行きづらくなってしまって………
距離感難しすぎる
サフィールもずっと家に居るが…
退屈してはいないのか？
…ん？
妾は…
別に……


…そ
そうじゃ！
ときに
指輪王よ
昨夜は遅くに
クリストルと
二人で出かけて
いたようじゃが…
何をして
おったのじゃ？
ああ…
…みんな
聞いてくれ
ちょっと
コンビニに
行ってた
だけ！
ね
サトウ！
!?
ほう…
隠し事を
しているな？


二人で夜中に…そうかそうか
この建物の壁は薄いからな
ニャニャ
…違う！違うから!!
じゃあなんだというのだ…？
バタン
ヒメ……
黙っていていいのか？
土の指輪の姫…アンバルのこと
みんな元の世界に戻れるかもしれないんだ


もう遅いよ…
あの世界は終わったの
だからおじいちゃんが命がけで逃がしてくれたんじゃない
それを無駄にするの？
戻って何ができるの？
本当に指輪が揃えば深淵王を倒せるの!?
サトウに…あんなのが
本当に倒せるの!?
………
わたしたちはもう……
この世界で幸せにならなくちゃ……


それからまた幾日――
はぁ～…
やっと終わったー
ギィ…
バタンッ


今日も
俺を見に来たのか？
ごくり
光の輪の君は？
ヒメか…先に課題終わらせてもう帰ったよ家のこともあるからって
そう…
…………


指輪王は
すぐにでもアーヌルスに戻るつもりだった？
……そのつもりだったよ
けどヒメの顔を見るとさ…
確かに今更指輪が揃ったところでどうにもならないかもしれない
大丈夫 指輪の力は絶対
必ず深淵王を封印することができる
…アンバルはそう教えられている
伝説の通りに……………か
強制はしない
指輪王はアンバルが造られた意味だから
指輪王が死ぬまで見届ける
死ぬまで……て


アンバルは…
アンバルが造られた意味を知りたい
それは…使命か？
たぶん興味というもの
待ち続けた時間の価値を計りたい
…重たいな
アンバルは重たくない
人並みの重さにつくられている
え…？
ニコ
…今のは冗談
…はは


指輪の姫はみんな同じ
指輪王のために生き世界のために尽くす
それが生まれた意味
その使命は軽くない
……
生きてきた意味……か
そう……だよな
アンバル
指輪を…くれないか
指輪王…
考えが変わった？


…いや答えが決まった
俺はやるべきことをやる
…そう
トッ
嬉しい
…理由は聞かないんだな
指輪王の意思がアンバルの意思
理由は要らない
…そっか


ガチャ
ヒメ…？


ごめんね…びっくりさせて
またおじいちゃんのこと思い出しちゃって…
でも大丈夫　今は勝手に涙が出るだけ
きっとそのうち…慣れるから



土の指輪だ
その指輪……！
これで五つの指輪が……揃った
アンバルから受け取ったの…？
どうして……
アーヌルスに戻る
……ッ‼


嫌っ……
ダメだよ!!
指輪さえ揃えば深淵王と戦える
俺たちが今ここに居るのは指輪が揃わなかったからだ
指輪が揃うなら行かなくちゃならない
わかってるよ！でも……
わたしはサトウをまた失いたくないの!!
サトウとせっかくまた一緒になれたのに
あんな危険な世界で…またサトウを失うことになったら……


…ヒメにとって
指輪の使命は
そんなものだったのか？
十年来の幼なじみ…
それが俺の知ってる
ヒメの全部だ
…その十年
それを全部
投げ捨てるくらい
大切な使命
だったはずだろ？
指輪の宿命から
解放されるって
いうのはさ…
逃げることでも
忘れることでも
ない
本当に
終わらせることでしか
解き放たれることは
ないんだ


一緒に立ち向かおう
…ヒメ
今度は俺もそばに居る
この使命はもうヒメだけのものじゃ無いんだ


ネフリティス
グラナート
サフィール
アンバル
そして何より
俺自身の…


じいさんが言ってた
指輪の力は絆の力だって
俺はヒメをどの世界の誰よりも愛しているからな
大丈夫…負けやしないさ


なにそれ…バカみたい
……でも安心した
そんなサトウなら負けっこないね
ヒメ……
じゃぁ…
わたしもそんなサトウの愛に応えなきゃだね……

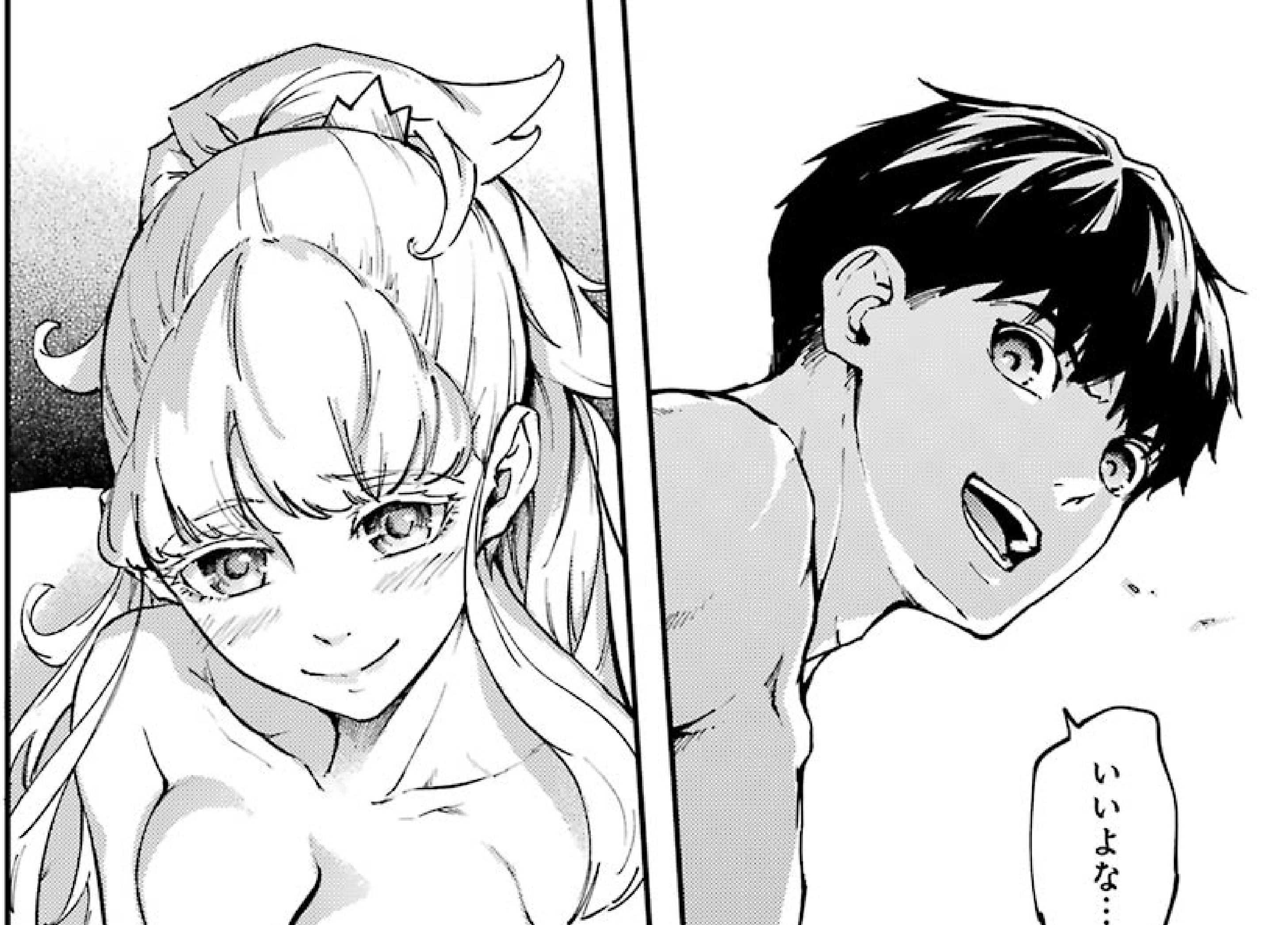

ねえ サトウ
あの約束 今 しちゃおっか?



え……
それって…
………
…言わせないでよ


ピカァーーッ
!?
ガラガラ
ガラ


転移魔法装置の準備が完了した
これでアーヌルスに……
あ…
最悪のタイミング？
うん
うん
アンバルの転移魔法装置は一度しか使えない
どうする…
行きます!!
今すぐ使います!!



再びアーヌルスへ――!!

結婚指輪物語5　おわり


アンバルは いわゆる落ちものヒロインだから・・・
メインヒロインになる資格がある!!
だが遅すぎた


あとがきページ
5カン
ついに指輪の姫が5人揃いましたね！
揃ったと言っても ほぼ登場しただけですが、
これでなんとか5巻までヒロインで統一することが出来ました。
この漫画は指輪が揃って これで終わりと言うわけでもなく、
まだしばらく続く予定なんですが、次から表紙はどうしましょうかね。
それはこれからの展開次第ということになるんですが……
それでは、次の6巻も お楽しみに!!
※イラストは、第25話の扉絵だったものです。


ふたたびアーヌルスへ帰還したサトウたち。
そこは魔物が溢れかえる
地獄と化していた。
深淵王を倒すため、
サトウと姫たちの、絆が試される——!!
NEXT
結婚指輪物語
TALES OF WEDDING RINGS
作：めいびい
第6巻 乞うご期待!!

デジタル版　Ver.1.00

ビッグガンガンコミックス

結婚指輪物語⑤

著者／めいびい

2017年６月24日　Ver.1.00発行

発行所　株式会社スクウェア･エニックス

担当編集　小泉浩志

装幀　阿閉高尚

初出／月刊ビッグガンガン2016 Vol.11～2017 Vol.04、Vol.06

Extra Contents

カバー折り返し



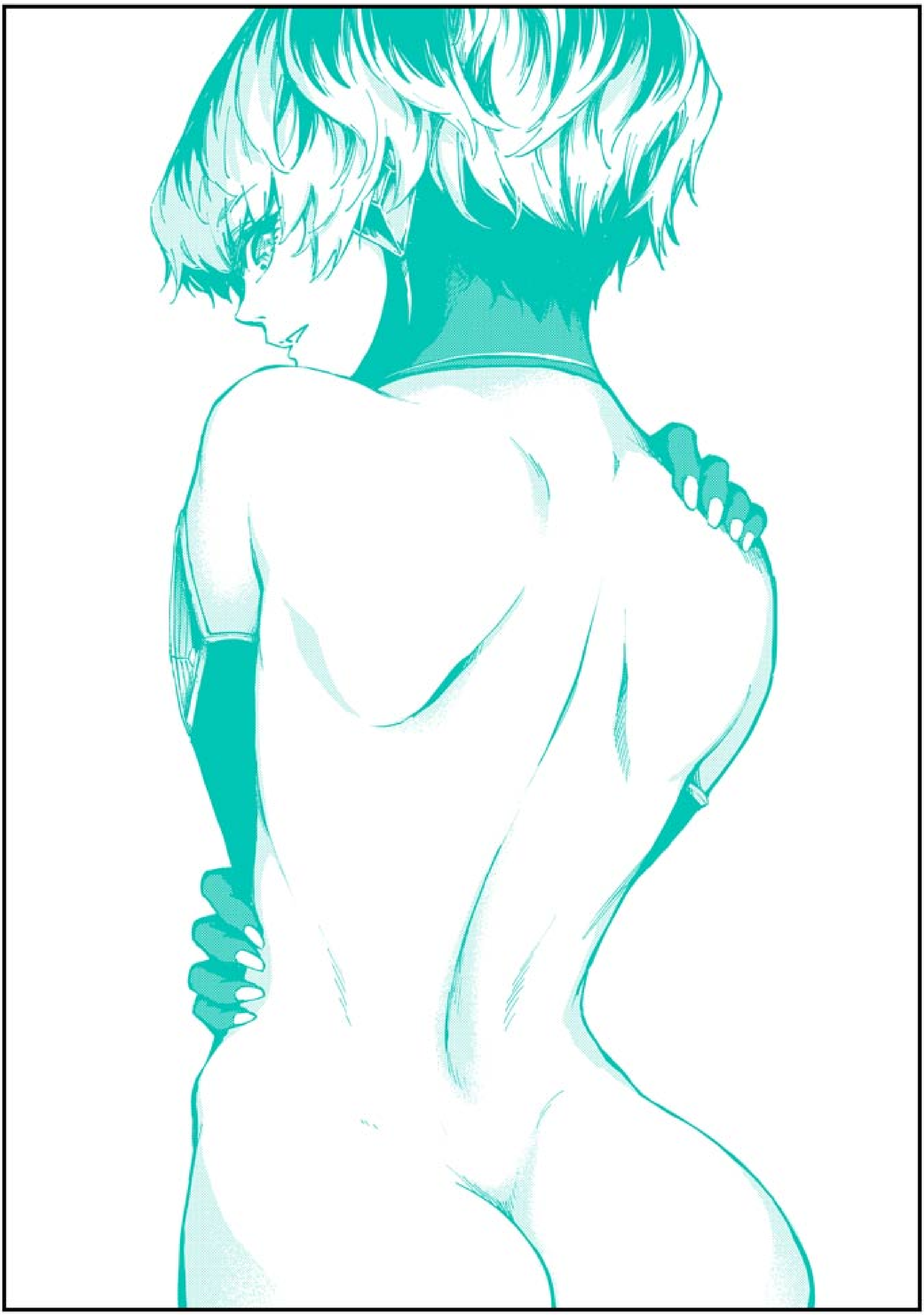
めいびい

MAYBE

なんとか遣り遂げた!感のある5巻です。

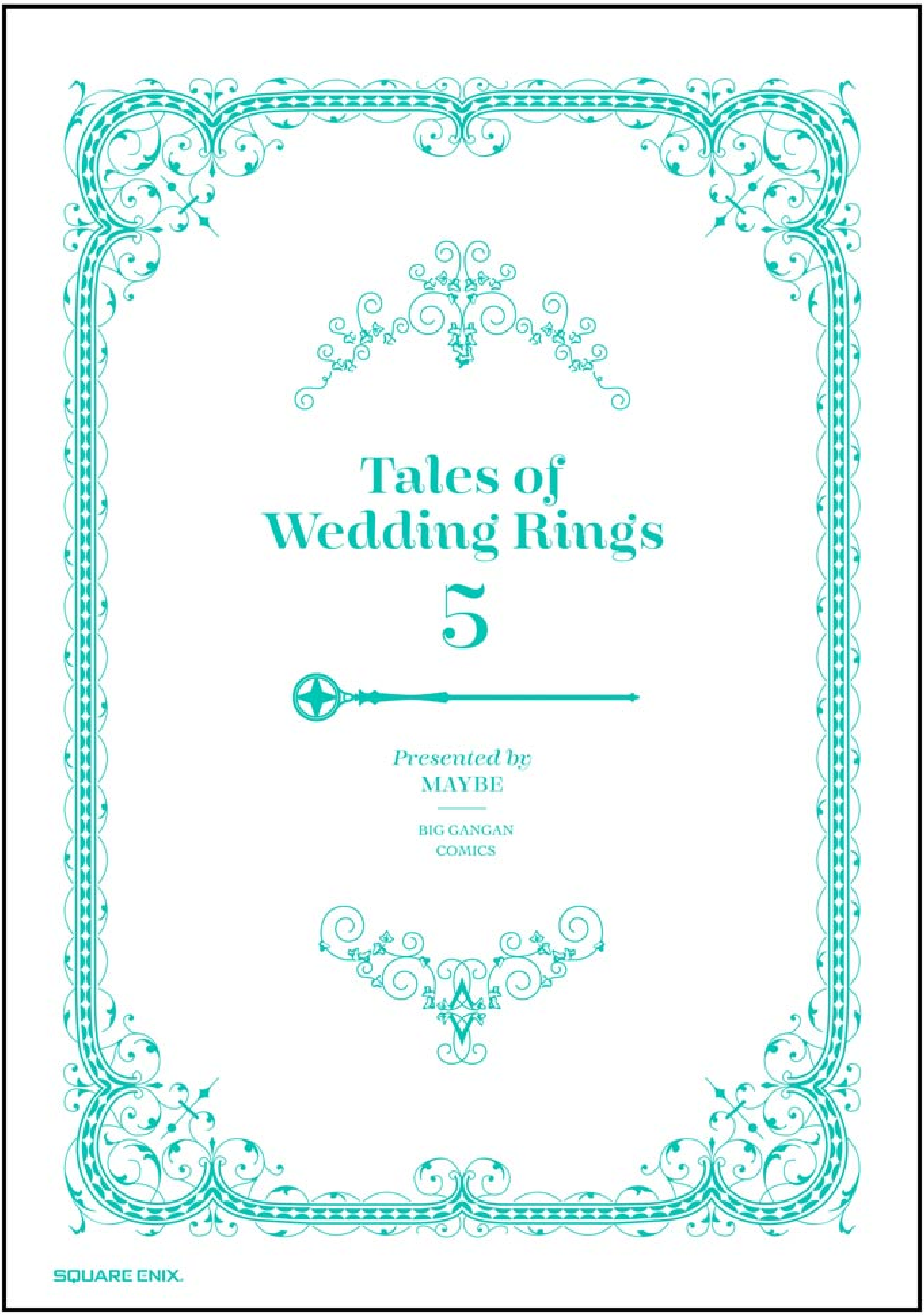
※コミックス発売時のカバー折り返しを収録

表紙 表



※コミックス発売時の表紙 表を収録

表紙 裏



※コミックス発売時の表紙 裏を収録

カバー裏

Tales of Wedding Rings

結婚指輪物語

5人目の姫を求め、土の国に向かったサトウたち一行。

しかし、土の国は既に滅び、姫の手がかりも見つからない。

そこに襲いかかる魔物の大群…世界は深淵王の手に落ちるのか!?

そしてサトウたちがたどり着いた場所は…!?

大人気ファンタジー、衝撃展開の第5巻!!

5

Presented by

MAYBE

※コミックス発売時のカバー 裏を収録